

令和6年度 事業計画書

1 東三河スタートアップ推進協議会の目的

東三河地域において、スタートアップ支援に係る様々な活動を行っている事業会社、大学、行政機関等により構成される東三河スタートアップ推進協議会は、東三河発のスタートアップの創出と、東三河に適したスタートアップ・エコシステムの形成を目的とする。

2 本協議会設立以前における東三河の課題とこれまでの取組

<課題>

- ・起業や新規事業の創出事例が少なく、また、それに挑戦できるような仕組みがない。
- ・起業家同士及び支援者を含めたネットワーク、コミュニティがない。
→（取組）起業・新規事業への挑戦や応援のしやすい文化を醸成。

<課題>

- ・支援者（機関）同士の連携が弱い。
- ・スタートアップでの就労経験者、支援経験がある人材が少ない。
- ・多様なフェーズでの支援プログラムが少ない。市町村により供給の偏りがある。
→（取組）東三河の市町村や団体、さらには東三河の枠を超えた支援の連携強化。

<課題>

- ・各市町村、団体による「点」での情報発信が多い。
- ・色々なプログラムや施設があるがどのように違うのか分からない。
- ・東三河での戦略的な発信が出来ていない。
→（取組）東三河全体による「面」での戦略的なPR。

3 これまでの成果及び今後の課題

<成果>

- ・Higashi Mikawa UPPERS 事業などにより、東三河において起業家やそれを支援する人のコミュニティが形成され、起業・新規事業の創出に向けた機運醸成を図ることができた。
→（課題）スタートアップを目指す起業家等をさらに発掘していくことが必要。

<成果>

- ・東三河 8 市町村実証実験サポート事業、東三河地域共創事業、大学連携事業などにより、東三河の市町村、商工会議所・商工会、大学等と連携した支援プログラムが増えた。また、東三河にないノウハウなどは愛知県や「PRE-STATION Ai」と連携することで、起業家等に提供することができた。

→（課題）起業家等の事業成長に繋がる、実証機会の提供、東三河内でのユーザーとしての利用促進や資金調達機会の提供など、より進んだフェーズの支援施策の充実と強化が必要。

<成果>

- ・東三河共創促進に向けた仕組化・可視化、情報発信・PR 事業などにより、本協議会ホームページや Facebook、YouTube などを活用し、東三河で一体的に情報を発信することができた。

→（課題）継続的な情報発信が必要

<成果>

- ・愛知県や「PRE-STATION Ai」との連携体制が構築され、PRE-STATION Ai 入居企業等の紹介や共催事業を実施することができた。

→（課題）本年度開業する「STATION Ai」との更なる連携の強化が必要

<成果>

- ・本協議会の正会員及び特別会員が、人、施設、資金面などを協力しながら、総会、運営部会及び6つの事業を実施することができた。

→（課題）新たな会員の獲得など持続可能な運営体制を構築することが必要。

4 令和6年度の目標

東三河発のスタートアップの創出と、東三河に適したスタートアップ・エコシステムの形成に向け、本年度は次の3つの目標を設定する。会員はもとより、東三河の事業会社や商工会議所・商工会、金融機関等を巻き込みながら東三河で一体となって事業を展開していく。

- (1) 東三河地域のスタートアップ・エコシステムの拡充
- (2) スタートアップ支援の強化（資金調達機会の提供、アワードの開催など）
- (3) 「STATION Ai」と連携した事業の展開

5 令和6年度の運営体制

本協議会の運営に関する重要事項について議論する場として総会を開催する。総会に関する事項の検討や事業の進捗確認等については運営部会で、具体的な活動に関して

は、各事業で実施していく。運営部会および事業においては、定期的なオンライン開催など効率的な運営を図るとともに、slack・メール等を活用して情報共有を図っていく。また、持続可能な運営体制を構築するため、新たな会員の獲得を目指す。

(1) 総会の開催

会則の変更等、当該年度の活動、本協議会の運営に関する重要事項について議論

< 構成員 >

事業責任者・・・各会員を代表する者

< 開催回数 >

年 1 回以上

(2) 運営部会の開催

総会に関する事項や進捗確認等

< 構成員 >

事業管理者・・・各会員組織の上層部と実務担当者を繋ぐために重要な役割を担っている管理職など

実務担当者・・・各会員組織の実務を担当する者

< 開催回数 >

事業管理者による運営部会・・・年 4 回程度

実務担当者による運営部会・・・隔週に 1 回程度

(3) 事業の実施

① Higashi Mikawa UPPERS 事業

② 東三河地域共創事業（東三河 8 市町村実証実験サポート事業を統合）

③ 大学連携事業

④ 東三河共創促進に向けた仕組化・可視化、情報発信・PR 事業

⑤ スタートアップ・エコシステムスタディ（勉強交流会）

< 構成員 >

実務担当者

< 開催回数 >

各事業とも週 1 回～隔週に 1 回程度

6 令和 6 年度の主な取り組み

(1) 5 つの事業の着実な推進

① Higashi Mikawa UPPERS 事業

東三河内外の起業家や応援者が参画し、4 か月間でヒアリング調査や実証実験などの成果を創出するプロジェクトを推進する。この活動により、事業が生まれ、育ちやすい機運を醸成し、参加者同士の交流機会を最大化する。

<参加者（例）>

- ・事業が進んでいる起業家や、上場や事業売却などを経験している先輩起業家
- ・起業を目指す方や起業直後の起業家
- ・起業に興味がある中学生・高校生・大学生
- ・東三河の産業を担っている跡継ぎ経営者
- ・行政、教育機関、商工会議所、金融機関などの支援機関
- ・ユーザーとなりうる東三河の住民

<具体的な内容>

- ・ミーティングの開催（週1回～隔週に1回程度）
- ・プロジェクト参加者による定例会の開催（月2回程度）
- ・活動発表・交流会（ミートアップ）の開催（年2回程度）

<KPIの設定>

- ・【第7期】（令和6年10月～令和7年1月）
プロジェクトの数 10プロジェクト

② 東三河地域共創事業

東三河8市町村実証実験サポート事業を統合し、東三河の自治体だけでなく、商工会議所・商工会、金融機関等と連携しながら、スタートアップと共創するための勉強会やピッチイベント、実証実験の誘致などを実施する。さらに、スタートアップを目指す起業家等をもっと東三河内外で知ってもらうためにアワードを開催するなど、東三河でスタートアップと事業会社との共創が自然と生まれるような環境づくりを目指す。

<具体的な内容>

- ・ミーティングの実施（週1回～隔週に1回程度）
- ・東三河の事業会社向けの勉強会の開催（随時）
- ・アワードの開催

<KPIの設定>

- ・勉強会等に参加した事業会社数 50社
- ・東三河でスタートアップがヒアリングや実証実験を実施した市町村数及び件数
5市町村 30件

③ 大学連携事業

㈱サイエンス・クリエイト及び㈱リバネスが実施するイベント「超異分野学会豊橋フォーラム」において、豊橋市や豊橋技術科学大学、豊橋商工会議所などと連携し、大学発スタートアップや事業会社における研究シーズを活用した新事業の創出に向けた活動を実施する。

<具体的な内容>

- ・ミーティングの実施（週1回程度）

<KPI の設定>

- ・研究シーズを活用した連携仮説の創出件数 50 件
- ・研究シーズを活用したサービスの社会実装 3 件

④ 東三河共創促進に向けた仕組化・可視化、情報発信・PR 事業

本協議会活動において、適正かつ円滑な運用を図るために定めた制度の定着化を図るとともに、必要に応じて制度の見直しや新たな仕組みを構築する。また、SNS などの発信ツールを活用して東三河内外に本協議会の取組を発信していく。

<具体的な内容>

- ・ミーティングの実施（週 1 回～隔週に 1 回程度）
- ・HP 及び facebook の運用（常時）
- ・広報媒体（やしの実 FM、note、Youtube など）を活用した発信（月 1 回程度）

⑤ スタートアップ・エコシステムスタディ（勉強交流会）

起業時における資金調達や、特許出願・商標登録などについて、専門家と気軽に個別相談できる場などを提供する。

<具体的な内容>

- ・ミーティングの実施（随時）
- ・スタートアップ・エコシステムスタディの開催（随時）

（2）本協議会会員が実施する事業との連携

emCAMPUS、CLUE、StartupGarage などの支援機関や、豊橋市及び愛知県などの行政機関に加え、「STATION Ai」やその他会員が実施する事業と連携（共催又は後援）し、団体間を越え東三河が一体となった活動を展開する。